



この新聞は HP (<http://www.npo-asia.org>) でも読めます。上の QR コードを読み取ってください
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414 E-mail: new-wind2006@npo-asia.org

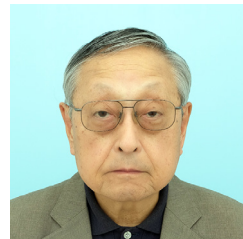
新年のご挨拶

理事長 加納 啓良

2024 年（甲辰で龍の年）、明けましておめでとうございます。昨年はようやくコロナ禍が終息したものの夏の猛暑に苦しみました。ウクライナやパレスチナでの戦乱も痛ましい状況が続いています。暗雲が光明に変わる一年となることをともに祈りたいと思います。

私事で恐縮ですが、コロナウイルス感染は免れたものの、昨年 7 月に左眼の白内障手術を受けました。濁った水晶体を人工の眼内レンズに交換したおかげで、目の霞みが取れて読書などが楽になりました。偶然ですが、ほぼ同時期に高校の同窓生数人も同じ手術を受けて視力を回復しています。白内障は普遍的な老化現象の結果で、日本では毎年 150 万件以上の手術が行わ

れているそうです。インドネシアで発刊されている邦字紙「じゃかるた新聞」（オンライン版を購読）の昨年 12 月初めの記事によると、日本の製薬企業 R 社の現地法人がバンドン郊外の工場で目薬と眼内レンズの製造ラインを拡張しました。眼内レンズは毎年 50 万枚を生産し、インドネシア国内での販売のほか、中国、タイなど 20 か国へ輸出するそうです。経済発展による所得向上と高齢人口増加により、アジアが現地の大学と提携している国々でも白内障手術の普及が進んでいくことでしょう。



タマサート大学訪問紀行

2023 年 10 月 11 日～13 日にかけてタイ・タマサート大学を訪問しました。日本側の窓口として尽力された古海正子理事や現地で入念な受け入れ準備をされたタマサート大学タサニー先生、シリワン先生、I メイト学生の皆さんのお蔭で、キャンパスツアーから始まり日本語学科が所属する教養学部長との公式ミーティング、東アジア研究所主催の日本語を学ぶ高校生との交流、世界最大の仏塔寺院見学ツアーなど充実したプログラムを体験することが出来ました。

10 月 11 日バンコク空港に参加会員 11 名で現地集合した後、バンコク郊外にあるキャンパス内の宿泊先に到着すると、I メイト学生たちは歓迎の宴の前に香りのよい花びらにひたした水を一人一人にお清めをする伝統的な風習（ソングラン）で我々を歓迎してくれました。翌 10 月 12 日には、教養学部長との間で大学とアジア風の交流意義について意見交換を行い今後も緊密に連携していくことを確認しました。日本語を学ぶ 4 高校の先生、生徒（あわせて 38 名参加）との交流イベントでは、会員が 3 班に分かれて、日本の伝統文化として紙芝居、折り紙、おにぎり作りを生徒たちに体験してもらい、生徒からはタイの伝統的な歌や踊

りが披露され、会員も飛び入りして一緒に踊りを楽しみました。夕刻に開催された I メイト学生との交流会では、全員浴衣姿で参加し、学生から歌が、会員からは風呂敷の包み方、尺八演奏が披露され、最後に全員で盆踊りを楽しみました。

10 月 13 日には先生や I メイト学生たちとの古都ナコーンパトムの仏塔寺院を訪ねた後、地元の人で賑わうタイレストランで豪快に盛り付けされた大きな焼き海老（クンパオ）など堪能しました。キャンパス内ではアルコール禁止だっただけに会員たちは美味なタイ料理を肴に久しぶりのビールに歓声を上げるなど、今回の訪問は I メイト学生たちとの貴重なリアル交流の場となりました。

（事務局長 西澤 逸実）



＜タマサート大学キャンパスにて＞

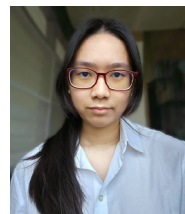
4 年ぶりの交流会でしたが、理事の皆さんと現地の先生方との並々ならぬ情熱と努力が凄く、大成功でした。僕も事前に段ボールで紙芝居スタンドを作りました。

高校生との交流では、おにぎり、折り紙、紙芝居のコーナーで、高校生と共にわいわいがやがや協力しながら楽しい時を過ごしました。高校生は、心から楽しみ喜んでくれて、強い印象を与え、多くのファンを作れたと思います。



僕の OG が、仕事が終わった後や、有休をとって応援に来てくれて、ずっと交流を続けてきて本当に良かったと思った瞬間でした。メインの交流でも全員浴衣姿でリラックスしながら歌ったり、演奏を聴いたり、時のたつのを忘れるほどでした。最終日は、バスツアーで、I メイトと一日共にし、普段の交流ではなかなか知りえない好きなアーティストのことやファッション、今後の留学先の相談など観光しながら理解、信頼を深め合えたと実感しました。充実した最高の交流会でした、ありがとうございました。（正会員 含本 一雄）

まず初めに、タマサート大学を訪問してくださって光栄でした。私がアジア風の I メイトの活動に参加したのは去年でした。前の活動はオンラインで行うので、今回は初めてアジア風のメンバーと会いました。アジア風の皆さんを歓迎して、ご飯を食べたり、話したりしたのは嬉しかったです。特に、皆さんと交流したことでした。日本人の方の活動は非常に素晴らしかったです。尺八の音がとてもきれいだし、風呂敷の使い方も勉強しました。そして、ゆかたを着て一緒に盆踊りをしたのはとても楽しかったです。日本の文化はとても美しいと思います。



また、ナコーンパトム One Day Trip も楽しかったです。色々な場所に行って、タイ料理を食べながら、タイ語やタイの文化などを話しました。今回の訪問ではいい経験であり、タイと日本の文化を両方勉強しました。今後また機会があれば、楽しみにしています。ありがとうございました。

（タマサート大学 1 年生 パーリター・パークホン

I メイトは山田 稔さん）

久々の集い 東日本 I メイト交流会

11月18日に約4年ぶりの東日本交流会を開催しました。久しぶりのリアルでの開催に、留学生とIメイトのOBOGたち、会員と合わせて36名の人が集まりました。今回は架け橋グループの来日歓迎会も兼ねての開催でした。留学生たちは関東圏はもちろん、名古屋、神戸、長野からも出席。オンラインで話したことがあるとはいえ、ほとんどの学生は初対面同様です。恥ずかしさ



うれしさが相まって、最初はすこしぎこちなさがみられました。

横浜東口からシーバスに乗り、15分のミニクルーズで、あっという間にピア赤煉瓦に

到着。人混みの赤レンガ倉庫を横目にみて、JICA 横浜の会場に移動しました。

さっそくランチタイム。食事を一緒にとると初対面の緊張が一気にほぐれ、その後、アジ風恒例のグループ会話が和やかに進み

ました。ベトナム、中国、インドネシア、タイ、日本と5か国の人たちが、日本での大学生生活、宿舎や勉強について、自国の紹介など、ざっくばらんに会話できたことはオンラインにはないリアル



の交流会の良さでした。しばらく会話を楽しんだ後、日本文化の紹介として、島村美智理事から風呂敷の由来と包み方の紹介がありました。実際に包んでみると、簡単そうなのにうまくいかず、日本人も四苦八苦です。いろんな使い方があることを教えてもらい、改めて風呂敷の便利さを再認識しました。また折り紙3枚で作るコマの折り方を習いましたが、これもなかなかの難物。きれいに折るのは至難の業でしたが、なんとか全員完成し、グループごとに童心に帰ってコマ回しをしました。

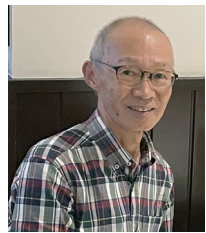
＜風呂敷包みにチャレンジ＞

時間はあっという間に経ち、会場を後にして、ランドマークタワーへ移動。お天気に恵まれ、展望台からは横浜港の大パノラマを堪能しました。楽しい一日を過ごせたと思います。

(理事 奥山 寿子)

楽しさ満載の一日

当日はミニクルーズに始まり、ランチ会、グループごとの懇親会、ランドマークタワー展望台見学まで、楽しさ満載の一日でした。懇親会前半の風呂敷の包み方や折り紙は私も初めての挑戦でした。今後の国際交流のために、このような日本文化も身に着けておきたいものです。



後半の意見交換の場は、企業における女性の活躍がテーマであり、学生たちが他の国の学生の意見に目を輝かせながら聞き入り、また自分たちの見解も率直に述べることで、お互いにモチベーションを高め合い、意義深い双方向交流になりました。また、日本のIメイト会員も各々の仕事のバックグラウンドが全く異なるので、他の会員の話を聞くことにより、目からウロコが落ちる思いでした。

楽しい一日をアレンジして下さった事務局の皆さん、ありがとうございました。(正会員 横山 茂明)

留学中の貴重な体験

東日本交流会に参加できて、本当に素晴らしい経験でした。これまで主にオンラインで交流してきたので、今回は日本での留学中でもあり、皆さんと実際にお会いできることが楽しみでした。当日、水上バスでの移動中にはIメイトメンバーと美しい港区の景色を楽しみながら、軽いおしゃべりを楽しむことができました。歴史あるレンガ倉庫まで目にして、とても興味深かったです。



本番のイベントでは、風呂敷を包んだり、折り紙でコマを作ったりといったアクティビティを通じて、日本ならではの文化や技術を楽しむことができました。これらの体験は本当に貴重な思い出になりました。短い時間でしたが、この素晴らしい機会を与えていただき、誠にありがとうございます。これからもアジ風のIメイトメンバーとして活躍していきたいです。(パジャジャラン大学 留学生

シャム ヌラジス Iメイトは藤井 衛さん)

アジ風奨学生レポート

2015年に発足したアジ風奨学基金は、コロナ禍をはさんで合計6人の元Iメイト学生を採用しました。会員の皆さんから更なるご関心をお寄せいただきたく、この機にアジ風新聞に特設欄が設けられましたので、随時奨学生の皆さんの「今!」をご紹介します。今回は第3回奨学生の皆さんの「今!」をご紹介します。今回は第3回奨学生の、王隼淇さん。清華大学卒業、一橋大学修士課程を終了後帰国。現在はアジ風の正会員として中国から活動に参加してくれています。

(担当理事 上 高子)

皆さん、こんにちは、第3回奨学生で、奥山正昭さんとIメイトだった王隼淇です。今は中国の杭州で、とあるインターネット企業でゲーム関連の仕事をしています。IT企業とはいえ、毎日パソコンをじっと見て作業するのではなく、日本や欧米のプレイヤーと関連会社とのコミュニケーションがメインな仕事になります。

仕事をしている最中に、異なる文化の相互理解の重要性を実感します。今の仕事を始めたばかりの時、特に欧米の方と打合せでは、時区(時差)の表示、言葉、文化などの違いはコミュニケーション

に多くのチャレンジをもたらしました。私は英語が苦手で、英語を見るだけでイライラしていました。そんな時はよく学生時代のIメイト交流を懐かしく思います。

奥山さんとIメイト交流を始めたばかりだった頃には、日本語が下手くそで、聞き取れないことはよくありました。その時は、奥山さんはいつも彼のミニ電子辞書で言葉を調べて、その意味や使い方などを教えてくれました。難しい言葉を使って、ペラペラしゃべれるより、内容を深く掘り下げていく過程で、お互いに人柄さえ理解できるのは交流にとって一番重要だと気づき始め、その後は英語のコミュニケーション相手にも直面できるようになりました。

もう一つよく思うのは、Iメイト交流と違って、職場では文化などの違いを話す機会と時間もなく、教えてくれる人もいません。そこで、留学経験者としての体験を生かして、うまく外国の方と接することが望まれます。私にとっては、日本での留学経験は、今の仕事で自信を持てる支えになっています。今Iメイト交流をしている学生の皆さん、ぜひぜひ、毎回の交流を大事にしてね。

(正会員 王 隼淇)



二大学交流会

・9月9日 タマサート大学とパジャジャラン大学 参加者 30 名（会員を含む）

・11月19日 清華大学とハノイ貿易大学 参加者 60 名（会員を含む）

I メイト学生たちの、他国の I メイト学生への関心が高まり、学生同士の交流会を望む声が聞こえてきました。そこで 2 大学がオンラインで交流するという上記イベントを開催しました。

まずは各大学のキャンパス紹介、授業風景、部活動などの動画を流して大学自慢をし、その後は日本の若者たちが作った 19 首の短歌について学生たちが感想を發表しました。文化の違い、各国の背景の違いが現れるかと思いましたが、世界的に広がった新型コロナ禍で、どの国の若者も共通の苦しい経験をし、また若者らしい恋する気持ちも共感をよんだようです。自分でも短歌を作ってみたいという学生もいて、学生たちが日本の短歌に関心を寄せてくれたのはうれしい出来事でした。グループディスカッションは若者たちの意見交換の場となり、会員はそれを見守るという、今までにない交流会を実施できました。

（理事 奥山 寿子）

タマサート大学とパジャラン大学（9月9日）

誰でも一度は大学生の時に感動した思い出があるのではないのでしょうか。私にも大学生の時にこのような素晴らしい思い出があります。

私は、1 年生から I メイトの活動に参加しました。いつも楽しいイベントが行われます。その中のひとつには、タマサート大学とパジャジャラン大学の合同交流会に参加したときがあり、色々なことを学ぶことができました。例えば、学生たちからのパジャジャラン大学の紹介を聞いたり、綺麗なビルや景色を見たりして、とてもわくわくしていて感動しました。こちらもこちらもお互いに日本語で自己紹介し、少し話し合い、非常に楽しい時間を過ごしました。この経験は、私にとって心に残るものになりました。（タマサート大学 3 年生 ヌンハタイ・セアヘン

I メイトは野村 幸弘さん）

私とパジャジャラン大学の I メイトたちは大学合同交流会に参加した。パジャジャラン大学とタマサート大学のアジア風主催による合同交流会である。この交流会に参加できることは、私にとってこの上ない喜びである。ここで私たちはお互いの大学を紹介し、自分たちのことも紹介した。私は畏敬の念を抱き、他国の大学について詳しく知ることができて本当に嬉しく、新鮮な経験だった。お互いのことをもっと知ってから、いつかタマサート大学を訪れたいと心から思うようになった。

今回の合同交流会でもいろいろな話題が出たが、私が一番興味を持ったのは、短歌をめぐる日本の文化だった。私は日本の歴史上の人物が好きで、その中の一人が清少納言だ。いい短歌を一首でも作りたいと思った。将来、また別の合同交流会に参加できたらいいな。（パジャジャラン大学 2 年生 プレンダ アプリッシリバウル I メイトは斎藤 利治さん）



清華大学と貿易大学（11月19日）

私は清華大学の日本語学科の学生としてハノイ貿易大学との交流会に参加しました。交流会で、両校の学生たちは、日本の友達によって書かれた短歌について自分の意見を交換しました。そして両国の学生たちは、小グループに分かれて、相手の国と学校について知りたいことについて交流しました。今回の交流会を通じて、私は大変勉強になりました。まず、ベトナムの方々と日本語で話したことで、自分の日本語の会話能力を伸ばしたと思います。それから、中国と日本以外の外国人の日本語に対する考え方を聞いて、私は、日本語を勉強することの目的、そして翻訳家になるという夢について、もう一度ちゃんと考えました。とにかく、この交流会は私にとってとても充実です。もしチャンスがあれば、もっとこのような活動に参加したいと思います。

（清華大学 2 年生 薛昊天 I メイトは奥山 正昭さん）

私は貿易大学 2 年生のレー・グエン・トエット・ゴックと申します。アジアの新しい風の I メイト学生になって約 1 年半経ちました。日本語で会話することが好きな私はオンラインのお喋り会やメールを通じてたくさん会話の機会があることに感謝しております。特に 11 月 19 日に開催された貿易大学と清華大学の合同交流会は、初めて同じく日本語を勉強している、または日本に興味を持つ他の国からの学生との交流でとても新鮮で楽しかったです。自分の国と日本の文化だけではなく、お互いの国の文化、またはそれぞれ自分たちの視点から見る日本の文化も共有できることで、会話のトピックはさらに広がると思います。「もう少し交流時間を伸ばしてほしい」と思うくらい盛り上がりましたので、ぜひまた次の合同交流会、参加させていただきたいと思っています！

（ハノイ貿易大学 2 年生 レー・グエン・トエット・ゴック

I メイトは奥山 寿子さん）



会員紹介

小関 高志さん

小関さんは東京生まれ東京育ちで東工大工学部を卒業されたエンジニアです。お勤めは日機装で、今年の 9 月に定年退職されました。特殊なポンプや原子炉用計装部品、航空機用複合材部品、血液透析装置の製造、販売を行う日本大手工業メーカーです。入社当初は原発の機器設計に携わりましたが、その後は海外での会社設立、工場建設などに従事され、これまで台湾、ホーチミン、上海、再びホーチミン、ドイツ、ハノイと世界各国に駐在し、会社生活の半分を海外で過ごされました。

アジ風に入ったきっかけも、ホーチミン時代に懇意にしていた方がアジ風会員の佐藤賢三さん（2019 年度 I メイト・オブ・ザ・イヤー）で、彼から熱意を持ってアジ風の活動をされている話を聞いたこと、また偶然ながらその頃貿易大学にリクルートに行っていたことが重なり、入会して見たいと思ったのだそうです。

入会して 2 年足らずなので I メイトの数はまだ 2 人だけです。

そのうちの 1 人、清華大学の陳鵬非君は東工大に留学に来ており、自分の後輩に当たるわけで、メールを通じての交流ではテレビゲーム・ファイナルファンタジーの話題をきっかけにとても交信が盛り上がったとか。

日本が再び勢いを取り戻すにはどうすればよいか、経済面だけではなく文化面で日本の優れた資産をもっと伝えることはできないか、アジ風会員達の知恵を集める機会があれば良い、アジ風の交流通信手段もいろいろ広がる中でそれぞれの使いやすいガイドラインがあると便利、留学生の日本での生活アドバイスを含み経験談紹介コーナーや相談チャットなどをホームページにあれば、来日中にしっかりお金を貯めた優秀な留学生が帰国時に税務署から出国を止められるようなことが起こらないように、アジ風としても適切なアドバイスが出来ると良い、などなど様々な考えをお聞かせくださいました。

次回はリアルで杯を傾けましょうと Zoom 画面越しに約束しました。

インタビュアー：園田 成和





パジャジャラン大学の I メイト交流希望学生は毎年多い為、絞ってもらいマッチングしているが、交流が順調な組は必ずしも多くない。これは相互に問題があるの事だと思うが、世代間のギャップもあり、学生達が求めるものと会員達の間に齟齬が生じているのかもしれない。それを解消するのは簡単では無いと思うが、時代や考え方が大きく変化しているので、メール交換だけに頼るのではなく、SNS も活用して会話をしたり、写真を送りあったり、チャットする事で補完して行くのが有効かもしれない。今回は、菊池和美さんとアプリルさん、原谷洋美さんとアマダさんの交流を紹介します。

(コーディネーター 鈴木 一美)

菊池和美さんとアプリルさん ノルマウリさんとの交流

アプリルさん→菊池さん

2023年 4月 24日

菊池さん、こんにちは。メールの返信が遅くなってしまってすみませんでした。交流会は本当に楽しかったです。

宿でよく自ら日本語の話すのを練習していますが、やはり現実とは想像より違いましたね。(笑) 友達とより日本人と会話するのは雰囲気は全く違います。アドバイス、ありがとうございます。頑張ります。

3月にはできたのですが、4月には時間がなくてできませんでした。4月には中間テストとイード・アル・フィトル当日があったので、バドミントンをすることができなかったのです。中間テストのあと、2週間ほど休みがあり、学生たちは地元に戻って、5月の2日に UNPAD に戻ります。

卒業式、とても面白かったみたいですね。写真を見てびっくりしました！人がたくさんいて、自分で卒業式を見たいと思っています。桜の花はとても美しいですね。触ってみたい、近くで見たいと思っています。インドネシアには桜がないので羨ましいです。

風邪を引かないようにしましょう。それでは、また交流会で会いましょう。

菊池さん→アプリルさん

2023年 4月 26日

アプリルさん メールありがとうございました。お元気そうで良かったです。イード・アル・フィトルって、ラマダン明けのお祝いですね。日本でも、ニュースになっていました。でも、イード・アル・フィトルという、カタカナ名だけでは、google に聞かないと(ググる、と表現します)分かりませんでした。すみません。勉強不足です。

お休みいいですねー。たまには、ゆっくりしてくださいね。日本は大学も新学期が始まり、忙しく走り回っています。今は、東京都に政策提言をするための書類を準備しています。大学教員の仕事は授業は半分です。いつまで経っても勉強、そして締切に追われています。

もうすぐゴールデン・ウィークです。5月始めの大型連休のことで。今年は土日とつながり、5日間連続で休みです！嬉しいですね。皆、コロナも落ち着いてきたので、お出かけを楽しみにしています。

でも、道路は混むでしょう。私は音楽会に行こうかと思っていますが、これも人が多いかもしれません。頑張ります。桜も早々と咲き終わりました。今度はバラの時期です。写真は、近所の公園の桜です。ではまた。

原谷洋美さんとアマダ インダー プトリさんの交流

原谷さん→アマダさん

2023年 11月 4日



プロフィールに「コスプレが好き」と書いてありましたね。「料理が好きでシェフになりたい」夢もとてもはっきりしていて、交流をしたいと思います。私も料理が好きで、昔から伝わっている食生活を大事にしています。体に良い梅干し作りの写真を添付します。インドネシアの料理も教えてください。

アマダさん→原谷さん

11月 16日

コスプレが好きです！魔法少女のミンキーモモは衣装もウィッグも小道具も全部自分で作りコンテストにも出て、1位になったんですよ。ミンキーモモを知っていますか。写真を見てください。



2019年に日本に留学生として行ったとき、梅干しを食べたことがあります。とてもユニークな味だと思います！そう、料理が好きで、いつかインドネシアでおにぎり屋さんを開きたいと思っています。インドネシア料理の具を入れたおにぎり、例えばレンダン味とか。レンダンとは、様々なハーブやスパイスで味付けしたココナッツミルクでじっくり煮込んだ牛肉の料理で、いつも母と一緒に作っています。

原谷さん→アマダさん

11月 20日

インドネシアでおにぎり屋さんは、きっと大流行しますね。日本のおにぎりは梅干しが定番だけれど、レンダン味は、人気が出ますよ。お母さんの味、家庭の味なのですね。

2019年に留学生とは、高校生のときなのかしら。だから、日本語が上手なのですね。どこに留学したのか詳しく聞かせてください。

アマダさん→原谷さん

12月 10日

横浜の公文国際学園に7か月間留学しました。文部科学省と AFS Japan が提供した「アジア高校生架け橋プロジェクト」です。4か月で N5 に合格することができました。戻ってからは、AFS インドネシアのボランティアとして、高校生の留学をサポートしています。留学の夢をかなえるお手伝いができるのは、過去の自分を見るようで本当に嬉しい。また留学して、日本でボランティアをしたいです。

今後の行事予定

*詳細はHPを参照

- 1月21日(日) アジ風出前講座
「日本で暮らす、働く」(ベトナム語)
講師: チャン トウ チャンさん
第2回 2月下旬~3月 予定
- 2月10日(土) アジ風出前講座
「日本とASEANの経済関係と課題」
講師: 小山昌久さん
第2回 3月9日(土) 予定
- 4月予定 新春交流会

・・・編集後記・・・

2024年、甲辰の年があけた。甲は「甲冑」に使われている文字から鎧、兜を連想させ、耐え忍ぶ状態、また生命や物事の始まりを意味するという。辰は、十二支の中で唯一空想上の生き物で、「振るう」という文字に由来し、草木が成長、活力が旺盛になる状態を表しているようだ。甲は十干の最初の文字、再スタートの年だ。

永らく途絶えていたリアルな交流が再開し、Iメイト学生が日本へ勉強、仕事、インターンシップなど様々な目的でやってくるようになった。昨年の東日本交流会は、留学生と会員が一同に会し、語りあう素晴らしい場となった。西日本交流会に続き、リアルの交流の楽しさを共有できた時間は何物にも代え難い。Zoomでは会っていても、いざ、対面してみると印象が変わり、それもまた楽しかった。世界中の人が笑顔になれる未来に向けて、アジ風も新しい一歩を踏み出そう。

(島村 美智)